



今号は西良新病院長に、徳島大学病院の未来について寄稿いただきました

世界に誇れる最新医療を提供・創造する大学病院

徳島大学病院 病院長 西良 浩一

皆様、米国の一番優れた病院はご存知でしょうか？それはメイヨクリニックです。日本人は、最高の病院と聞くとニューヨークやシカゴなどの大都会の病院と発想します。しかしながら、メイヨクリニックは、大草原の小さな家で有名な中西部ミネソタ州に位置し、しかも大都市のミネアポリスではなく、とても小さいロチェスターという街にあります。交通の便が悪く、冬はマイナス30度くらいになる気候も厳しい所にあります。そんな田舎にある病院が、世界一なのです。世界中の重鎮VIPが病気になったら自家用ジェットで訪れるとも言われています。すごい田舎の病院でも世界一になれるのです。田舎度では徳島市もロチェスターに、負けていません。



私は2025年4月から徳島大学病院・病院長を拝命しました。私どもは徳島県における唯一の大学病院です。まず、県民の皆様へ「世界に誇れる最高水準の治療を提供する」義務がございます。県民最後の砦として、常に最高のそして最新の医療を行うべく、職員皆様と精進致したいと思っています。もう一つの大きい役割は「未来の診断法・治療法を創る」ことです。現在の医療レベルでは解決できていない、より良い次世代医療の開発です。それこそがアカデミアである大学病院たる所以です。徳島大学病院のキャンパスには、医学部・歯学部・薬学部の他、医科栄養学科、保健学科と、サイエンスに溢れています。さらに医工・医光・医農連携もすすみ、医療イノベーションの最高の環境です。

現時点での世界に誇れる最高水準の治療を提供すること、そして、未来の診断法・治療法を創ること。この2点を具現化することで、徳島大学病院が地域に根ざした世界に誇れる大学病院となり、さらに日本におけるメイヨクリニックになれると確信しております。私は、徳島県民はもちろん日本中から最後の砦と頼られるような病院になる日を夢見ています。夢を実現するために、病院長として粉骨砕身頑張ります。職員の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。





病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します

子と親のこころ診療・学習障害センターについて

徳島大学病院小児科 子と親のこころ診療・学習障害センターでは、学習に関して支援が必要なお子さんの診断・治療を行っています。支援の必要な児童に対し、読み書き能力検査・知能検査・視覚認知検査・脳機能検査(近赤外線スペクトロスコピー)等を行い、各個人が持つ特性や、苦手とする原因を明らかにし、支援の方策を見極めることができます。

近年、こころの問題を抱え、来院される方の中に学習に対する不安を抱える児童が増加しています。不登校の原因の一つに、学習不振や学習への不安の問題があると考えられています。不登校・心身症などの二次障害を予防するためにも、読み書き、算数などに対して支援の必要な児童の早期診断・早期支援をすることが大切と考えられます。

読み、書きが苦手な場合でも原因は一つと限りません。文字から音を思い出すのに時間がかかっている場合、文字が見えにくい場合、文字の形を記憶しにくい場合、語彙が少ない場合もあります。そのため、より詳しい検査をして、個々の特性を見極めることが必要です。外来では、詳しい検査の結果、得意なことを伸ばし、苦手なところを補えるような学習支援をしています。例えば、読みが苦手な場合の読み指導、漢字が苦手な場合の覚え方の支援など一人一人のニーズに合わせて個別指導を行っています。また、個々の能力に合わせた合理的配慮をお願いするなど、学校や家庭における環境調整のアドバイスをし、二次障害の予防を行なっています。



さらに、徳島大学病院眼科(視覚認知外来)、鳴門教育大学発達臨床センターとの連携により、より詳しい支援について、検討しています。一人でも多くの子どもたちが、楽しい学校生活を送ることができるよう、徳島県小児科医会・徳島県教育委員会とも連携を取りながら、お子さんの特性に応じた支援を学校の先生とともに考えていきます。

子と親のこころ診療・学習障害センター
前センター長 森 健治
(令和7年3月31日定年退職)

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係 (bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp) までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしています。





**卒後臨床研修センター／放射線診断科
特任助教 三橋 遼太**



皆さんはいつから雪の日の嫌いになりましたか？子供の頃は雪にワクワクしたのですが、歳を取るにつれて通勤時の混雑や事故の危険性、業務への影響を考えて辟易とした気持ちになってしまいます。しかしそんな雪が絶対に必要なものがあります、そうウィンタースポーツです。私はスキー・スノーボードともに学生時代から嗜んでおり、今シーズンは約5年ぶりとなる北海道へ行って来ました。広大なゲレンデ、抵抗を感じさせないパウダースノー、理想的な環境のおかげで普段よりずっと上手く滑ることができます。5年前と違い周りがほとんど外国人だったことには驚きましたが、目立ったトラブルや事故もなく久しぶりの北海道を満喫することができました。旅行で気分もリフレッシュし、日々の業務に一層励んでいこうと思います。令和6年4月に卒後臨床研修センター／放射線科に赴任しました、三橋遼太と申します。今後ともよろしくお願いいたします。

泌尿器科 医員 湊 亮詠



2024年4月より徳島大学泌尿器科に着任した湊亮詠と申します。徳島県海部郡の出身で、徳島県立富岡西高校、徳島大学医学部(2012年)の卒業です。小学では空手・水泳、中学では器械体操、高校は帰宅部、大学ではラグビー部に所属していました。社会人となってからは、運動不足が続いており、ジムに通うか、妻と一緒にヨガ教室に通うか、公園の筋トレおじさんになるか思案中です。今年度より大学院に入学し、臨床をしながらですが、基礎研究にも力を入れたいと考えています。専門は泌尿器科一般でまだまだ未熟ではありますが、現在は男性不妊についても勉強中です。皆さんのお役に立てるように頑張りたいと思います。泌尿器科学は腫瘍、結石、排尿障害、移植、透析関連、女性泌尿器、小児泌尿器、男性不妊、性機能など分野が多岐にわたり、自分のサブスペシャリティが必ず見つかると思います。研修医の先生、学生の皆さん、少しでも興味ある方は是非見学に来てみてください。

麻酔科 医員 宮内 真名美



令和6年度より徳島大学麻酔科に勤務させて頂いております宮内真名美と申します。徳島大学を卒業後、徳島赤十字病院で初期臨床研修を終了し、令和5年に徳島大学麻酔科に入局いたしました。徳島赤十字病院で1年間勤務

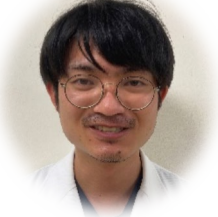
を経て現在に至ります。

麻酔科では全身麻酔や局所麻酔、鎮静下での手術において麻酔管理を行なっています。症例ごとに術前回診と症例カンファレンスを行い、適切で安全な麻酔ができるように心がけています。

また、大学病院では小児外科症例や緊急の産科症例も多く、指導医の先生方から日々多くのことを学ばせていただいております。

まだまだ至らない点ばかりですが、精進して参りますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

歯科麻酔科 医員 藤田 創詩



令和6年4月より歯科麻酔科の医員として入局しました、藤田創詩と申します。徳島大学を卒業後は2年間、近畿大学病院の歯科口腔外科にて研修医をしておりました。研修終了後、母校に帰ってきた形となります。

歯科麻酔科では、歯科の処置・手術におけるモニター管理、鎮静、全身麻酔を行っています。

麻酔科の仕事として侵襲の大きな手術時の鎮静、または全身麻酔を担当することは一般的だと思います。歯科麻酔科に特徴的なのは、歯科恐怖症や強い嘔吐反射をもつ患者さんなど、通常の治療が困難な方の治療を可能にすることにあると考えています。

歯科医としてもまだまだ未熟な部分が多くありますが、患者さんのより良い治療の手助けになれるよう日々精進していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

**医療技術部診療放射線技術部門
診療放射線技師 竹内 秀真**



令和6年4月より医療技術部診療放射線技術部門に配属となりました竹内秀真と申します。令和6年3月に徳島大学大学院保健科学研究科博士前期課程を修了したのち、徳島大学病院に入職しました。現在は一般

撮影を担当しております。日々多くの患者さんが来られる中で診療・治療の支援となるような画像を提供できるよう撮影業務に励んでおります。

趣味はバイクです。先日九州まで2泊3日のソロツーリングをしてきました。非常に寒かったのですが、事前に決めた目的地まで諦めることなく辿り着けたので、達成感を感じることができました。このように決めた目標に向けて努力し達成していく精神で日々の業務に取り組みたく思っております。

社会人1年目でいろいろと至らぬ点があるとは思いますが、少しでも早く一人前の診療放射線技師となれるよう精進していく所存でありますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

西病棟8階 看護師 蛭子 菜々穂



令和6年4月に入職し、西病棟8階へ配属となりました蛭子菜々穂と申します。

西病棟8階は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、泌尿器科の混合病棟です。耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、「話す」「聴く」「食べる」など言語的コミュニケーション機能や感覚機能、

嚥下機能が障害された患者さんに対して、医師・栄養士・理学療法士・薬剤師など多職種と連携し、機能の維持・回復ができるように努めています。また、泌尿器科では、自己導尿や尿路変更術後のストーマ管理など、退院後も安心して自己管理ができるように支援しています。患者さんが治療を終え、笑顔で退院していく姿をみると、とてもやりがいを感じます。

休日は、友達と旅行に出かけたり家で飼っている猫とのんびり過ごしたりして、リフレッシュできるようにしています。

まだまだ未熟ではありますが、先輩のご指導のもと患者さんに寄り添い、個々のニーズに合わせたより良い看護が提供できるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。